

# 最近多発している豪雨災害について

瀬尾 和大

宮城教育大学教育復興支援センター紀要第3巻抜刷

2015

## 最近多発している豪雨災害について

瀬尾和大\*

### Recent Heavy Rain Disasters Taking Place around Us Quite Often

Kazuoh SEO

要約：最近では毎年のように各地で豪雨災害が発生しており、1時間降水量が100mm という大きな値を突破することもしばしばである。本報では、一例として2014年広島土砂災害というごく最近に発生した豪雨災害に着目し、災害を著しく大きくした要因が何であったかについて、現地調査の印象も交えて考察を行っている。その結果として判明したことは、広島土砂災害を著しく大きくした原因は、誘因としての局地的豪雨の影響も然ることながら、素因としての地形地盤環境の方により大きな問題があるというものであり、同様の傾向は神戸についても当てはまることを指摘している。仙台の場合には、直ちに豪雨災害には至らないかも知れないが、豪雨災害と地震に伴う地盤災害には共通点も多く、互いに影響し合うことも考えられることから、1978年宮城県沖地震と2011年東北地方太平洋沖地震における地盤災害の事例に注目し、ひな壇型造成地や切盛り造成地における盛り土地盤で地盤崩壊（崖崩れ）が発生しやすいことを指摘している。

キーワード：豪雨災害、1時間降水量、総降水量、2014年広島土砂災害、真砂土、  
仙台の地盤災害、宅地開発、切盛り造成

#### 1. はじめに

わが国においては、地震・津波災害や火山災害と並んで豪雨災害を軽視することはできない。それどころか毎年の防災白書によれば、損害額に換算した場合には豪雨災害による被害の大きさが他の自然災害を圧倒しているとのことである。筆者が以前から豪雨災害に注目している理由は二つある。一つは、ある地域が次に襲われるのが地震・津波災害なのか、火山災害なのか、それとも豪雨災害なのか誰にも判らないことである。もし仮に地震災害のみに万全な対策を施した地域があったとして、その対策が果たして火山災害や豪雨災害に対して有効であるだろうか。ある地域の防災対策をより効果的なものとするためには、地域にとって最も頻度の高い自然災害に備えるのが先決であり、出来ることならば、考えられるあらゆる自然災害に対して有効な防災対策が望まれる。もう一つは、複合災害もしくは競合災害という視点である。それぞれの災害は単独で発生しても脅威であるが、例えば、地震による山地の亀裂や火山噴火に引き続いて発生した豪雨が甚大な土石流災害をもたらした例もあれば、逆に、豪雨の後に発生した地震によって斜面崩壊などの地盤災害を引き起こされる例もある。筆者がこれまでに訪れたのは、2004年新潟豪雨、2009年山口豪雨、2010年奄美豪雨、2011年の台風12号に伴う南紀豪雨、2013年の台風26号に伴う伊豆大島豪雨などの災害現場であるが、いずれの地域においても共通に指摘できるのは、周辺地域よりも不安定な地形地盤という素因と、その地域にもたらされた局地的豪雨（集中豪雨ともゲリラ豪雨とも呼ばれる）という誘因が揃った場合に限って豪雨災害が発生するという極めて当たり前のことである。（これらの現地調査の結果につ

\* 宮城教育大学教育復興支援センター 研究開発部門